

岡山県感染症週報 2013 年 第 52 週 (12 月 23 日～12 月 29 日)

【お知らせ】次週、2014 年第 1 週(12 / 30～1 / 5)の感染症週報は、平成 26 年 1 月 14 日(火)にホームページに掲載いたします。

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2013 年 第 52 週 (12 / 23～12 / 29) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 50 週	5 類感染症	アメーバ赤痢 1 名 (30 代 男)
		破傷風 1 名 (80 代 女)
第 51 週	2 類感染症	結核 1 名 (50 代 女)
	5 類感染症	アメーバ赤痢 1 名 (70 代 男)
第 52 週	2 類感染症	結核 2 名 (30 代 男 1 名、90 代 女 1 名)
	5 類感染症	後天性免疫不全症候群 1 名 (60 代 男)
		風しん 1 名 (20 代 女)
		麻疹 2 名 (幼児 男 1 名、20 代 男 1 名)

■定点把握感染症発生状況

- インフルエンザは、県全体で 127 名 (定点あたり 0.93 → 1.53 人) の報告があり、前週より増加しました。定点あたり 1.00 人を上回り、岡山県はインフルエンザの流行シーズンに入りました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 730 名 (定点あたり 17.30 → 13.77 人) の報告があり、前週より減少しました。
- RS ウイルス感染症は、県全体で 42 名 (定点あたり 1.06 → 0.79 人) の報告があり、前週より減少しました。
- 咽頭結膜熱は、県全体で 42 名 (定点あたり 0.57 → 0.79 人) の報告があり、増加が続いています。
- 水痘は、県全体で 97 名 (定点あたり 1.57 → 1.83 人) の報告があり、前週より増加しました。

1. **インフルエンザ**は、県全体で 127 名 (定点あたり 0.93 → 1.53 人) の報告があり、前週より増加しました。インフルエンザ流行開始の目安となる定点あたり 1.00 人を上回ったことから、岡山県はインフルエンザの流行シーズンに入りました。県内の発生状況など詳しくは、[「インフルエンザ情報」](#)をご覧ください。
全国の第 51 週の発生状況を見ると、定点あたり 1.39 人となり、定点あたり 1.00 人を上回りました。このため 12 月 27 日に今年のインフルエンザが流行シーズンに入ったと発表されました。
2. **感染性胃腸炎**は、県全体で 730 名 (定点あたり 17.30 → 13.77 人) の報告があり、前週より減少しました。第 43 週から約 2 ヶ月ぶりの減少となっています。県内の発生状況など詳しくは [「感染性胃腸炎情報」](#) をご覧ください。
3. **RS ウイルス感染症**は、県全体で 42 名 (定点あたり 1.06 → 0.79 人) の報告があり、前週より減少しました。地域別では、倉敷市 (1.64 人)、美作地域 (1.33 人)、岡山市 (0.86 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。第 52 週までの年齢別累計では、6 ヶ月未満 21%、6～12 ヶ月 26%、1 歳 33% と、1 歳以下の乳児が 80% を占めています。この感染症は、秋から冬にかけて多くの患者が報告されており、今後再び患者数が増加する恐れがあります。ひきつづき手洗い、うがい、マスクの着用等、感染予防に努め、お子さんの体調が悪いときは、早めに医療機関を受診してください。
全国の第 51 週の発生状況を見ると、定点あたり 1.30 人の報告がありました。10 月頃からは、増減を繰り返しながら緩やかに増加しており、過去 10 年で最も多いレベルで推移しています。地域別では、徳島県 (5.13 人)、香川県 (3.77 人)、高知県 (3.73 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。
4. **咽頭結膜熱**は、県全体で 42 名 (定点あたり 0.57 → 0.79 人) の報告があり、第 49 週以降 4 週連続で増加しています。地域別では、備北地域 (4.67 人)、美作地域 (1.00 人)、岡山市 (0.86 人) の順で定点あたり報告数が多く、特に備北地域で定点あたり報告数が多くなっています。年齢別累計では、1 歳 27%、3 歳 13%、4 歳 12% の順で多く報告されており、0 歳～5 歳の乳幼児が 80% を占めています。
全国の第 51 週の発生状況を見ると、定点あたり 0.80 人の報告がありました。地域別では、佐賀県 (2.91 人)、島根県 (2.65 人)、富山県 (2.62 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。島根県、広島県 (2.03 人)、鳥取県 (1.74 人) など、近隣の県での定点あたり報告数が岡山県に比べて多くなっていますので、今後の県内の発生状況に注意するとともに、流水と石けんでしっかりと手を洗い、患者との接触を避けるなど、感染予防に努めましょう。
5. **水痘 (水ぼうそう)** は、県全体で 97 名 (定点あたり 1.57 → 1.83 人) の報告があり、前週より増加しました。第 48 週 (11 月下旬) 頃から増加傾向で推移しています。真庭地域 (定点あたり 2.50 → 7.50 人) で大きく増加し、発生レベル 3 になりました。水痘ウイルスの感染力は極めて強く、発しん出現の 1～2 日前から出現後 4～5 日、あるいはかさぶたになるまで他の人へ感染させる可能性があります。患者との接触を避ける等、感染予防に努めましょう。また水痘には、任意接種のワクチンがあります。水痘のワクチンは 1 歳から接種することができますので、任意での予防接種をご検討ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★★★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★★
手足口病		★	伝染性紅斑		
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		—			

【記号の説明】 前週からの推移:



: 2 倍以上の減少



: 1.1～2 倍未満の減少



: 1.1 未満の増減



: 1.1～2 倍未満の増加



: 2 倍以上の増加

発生状況: 空白: 発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、平成 25 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。

インフルエンザ情報 2013 年 第 52 週 (12 月 23 日 ~ 12 月 29 日)

【お知らせ】次週、2014 年第 1 週(12 / 30~1 / 5)のインフルエンザ情報は、平成 26 年 1 月 14 日(火)にホームページに掲載いたします。

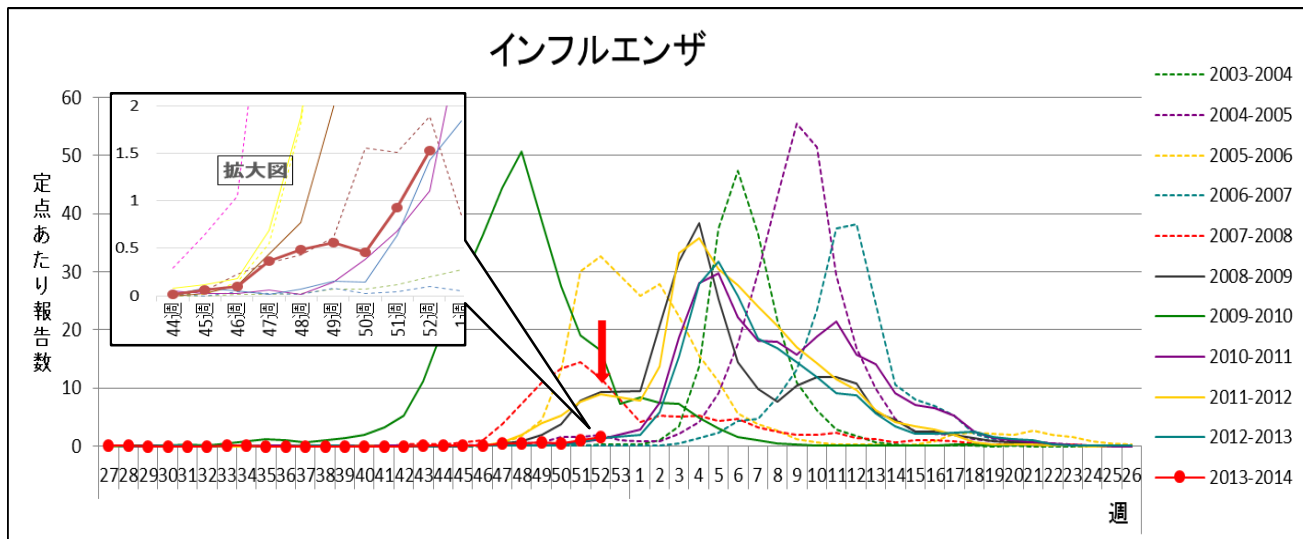
➤ 岡山県の流行状況

○インフルエンザは、県全体で 127 名(定点あたり 0.93 → 1.53 人)の発生がありました(83 定点医療機関報告)。

岡山県はインフルエンザの流行シーズンに入りました。

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

○インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

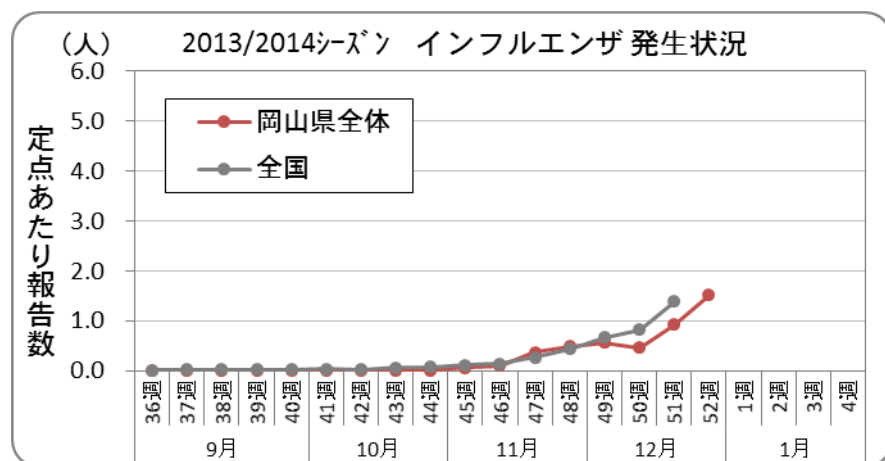


2. 地域別発生状況

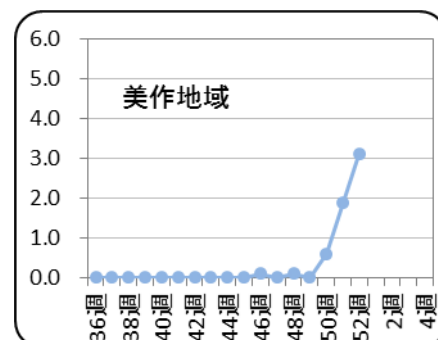
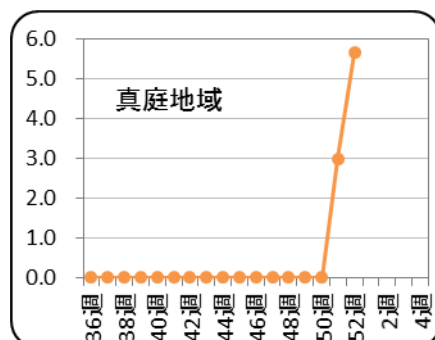
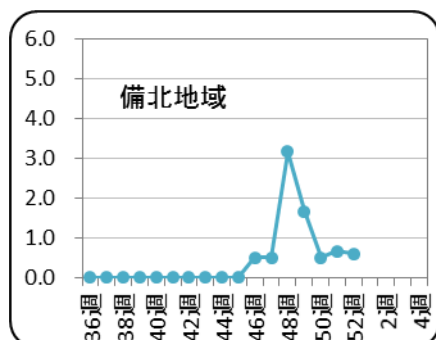
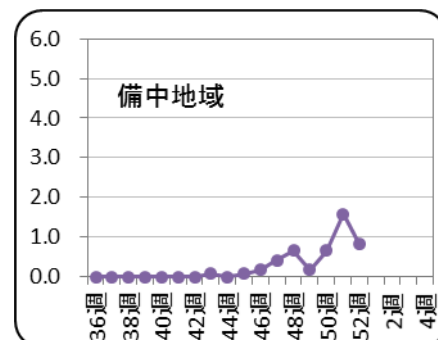
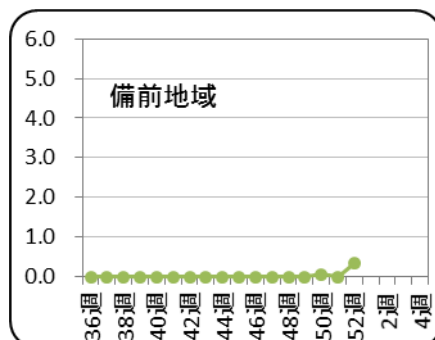
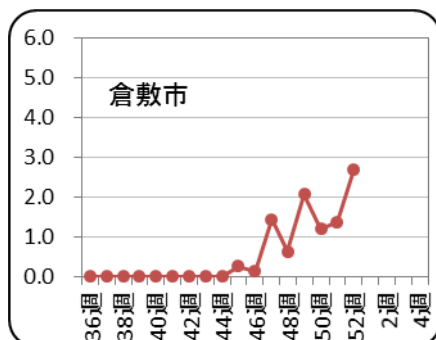
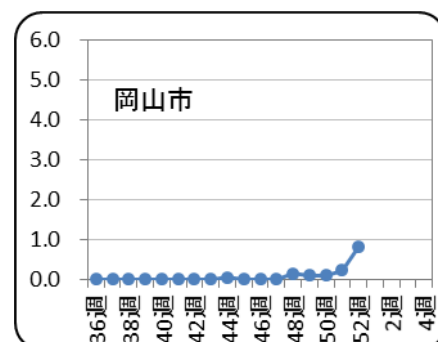
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	127	↑	備 中	患者数	10	↑
	定点あたり	1.53			定点あたり	0.83	
岡山市	患者数	18	↑	備 北	患者数	3	↑
	定点あたり	0.82			定点あたり	0.60	
倉敷市	患者数	43	↑	真 庭	患者数	17	↑
	定点あたり	2.69			定点あたり	5.67	
備 前	患者数	5	↑	美 作	患者数	31	↑
	定点あたり	0.33			定点あたり	3.10	

【記号の説明】 前週からの推移： 2倍以上の減少 ↓ 1.1～2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
1.1～2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑



全国集計第51週(12/16～12/22)速報値によると、全国では定点あたり1.39人であり、インフルエンザ流行開始の目安となる「定点あたり1.00人」を初めて上回ったことから、今年もインフルエンザが流行シーズンに入ると発表されました。地域別では、山口県(5.12人)、鹿児島県(4.67人)、高知県(3.92人)の順で定点あたり報告数が多くなっており、44都道府県で前週よりも増加しました。



3. インフルエンザウイルス検出状況

第 52 週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンでこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型が 7 株です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3 型が 163 株、AH1pdm09 型が 77 株、B 型が 70 株で、昨シーズンの同時期同様 AH3 型が最も多く検出されています。（平成 26 年 1 月 7 日現在）

[（インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所））](#)

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	0	88	0	54	0	6	—	—	0	3	0	3	H25. 11. 13
岡山市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
倉敷市	0	58	0	36	0	3	0	0	0	0	0	3	H25. 11. 18
備前地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
備中地域	0	21	0	10	0	2	0	0	0	2	0	0	H25. 11. 13
備北地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
真庭地域	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—
美作地域	0	9	0	8	0	1	0	0	0	1	0	0	H25. 12. 20

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

2) 臨時休業施設数の内訳

第 52 週：0 施設

累計：6 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	0	1	0	5	—	—	—	—	—	—

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者の報告はありませんでした。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。

<インフルエンザの予防接種はお早めに！>

インフルエンザの予防接種を行っても、**抗体ができるまでには 2 週間程度**かかるとされています。本格的な流行が始まる前に、早めのワクチン接種をご検討ください。

定期予防接種の対象者は積極的に予防接種を受けましょう。定期予防接種の対象者以外の方は、任意での予防接種を受けることをご検討ください。

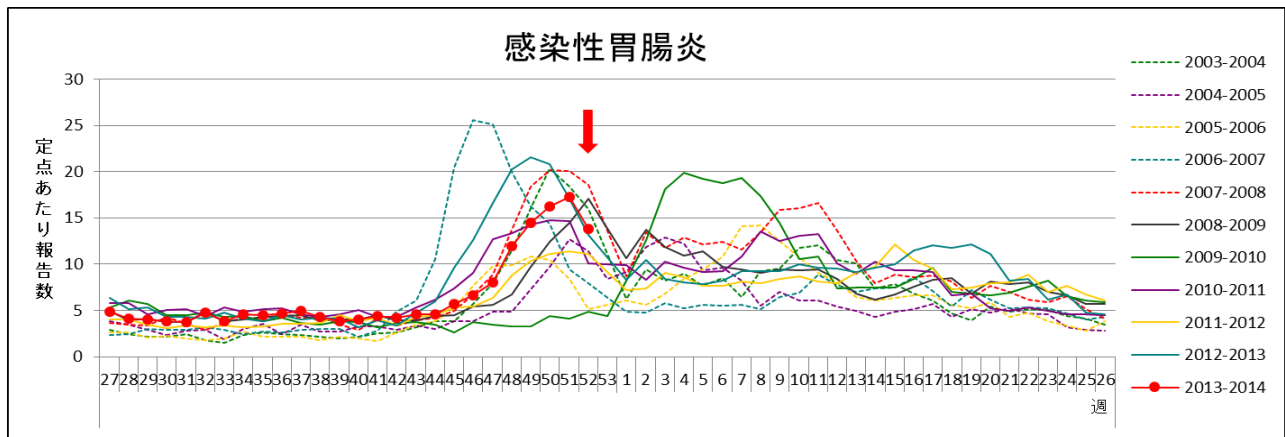
<インフルエンザワクチン定期接種対象者>

- 65 歳以上の高齢者
 - 60～64 歳で心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方
- ワクチンの在庫及び、予防接種の予約等については、各医療機関にお問い合わせください。

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 52 週 (12 月 23 日 ~ 12 月 29 日)

【お知らせ】次週、2014 年第 1 週(12 / 30 ~ 1 / 5)の感染性胃腸炎情報は、平成 26 年 1 月 14 日(火)にホームページに掲載いたします。

○感染性胃腸炎は、県全体で 730 名(定点あたり 17.30 → 13.77 人)の発生がありました(53 定点医療機関報告)。

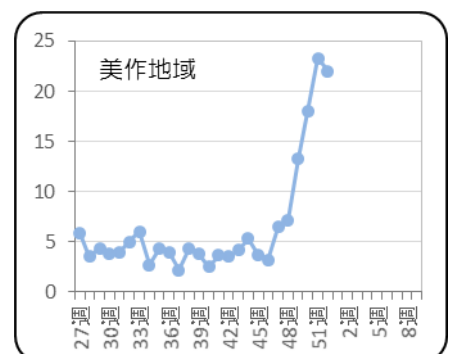
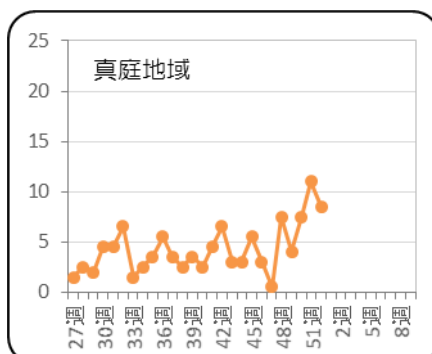
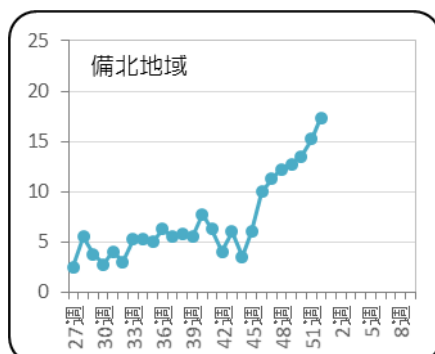
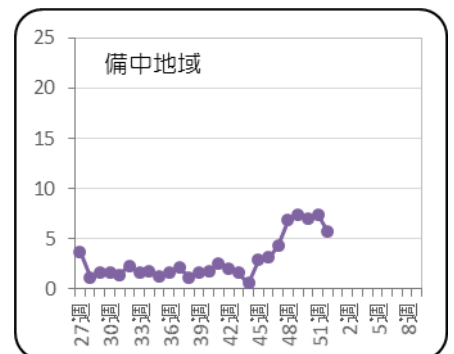
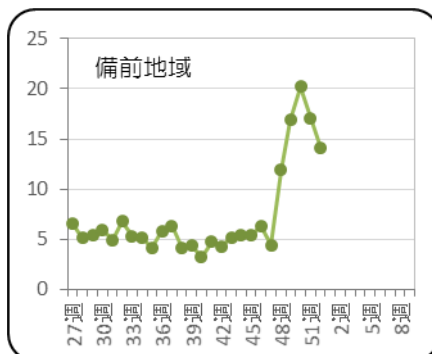
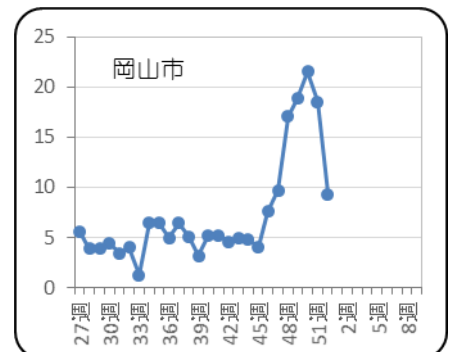
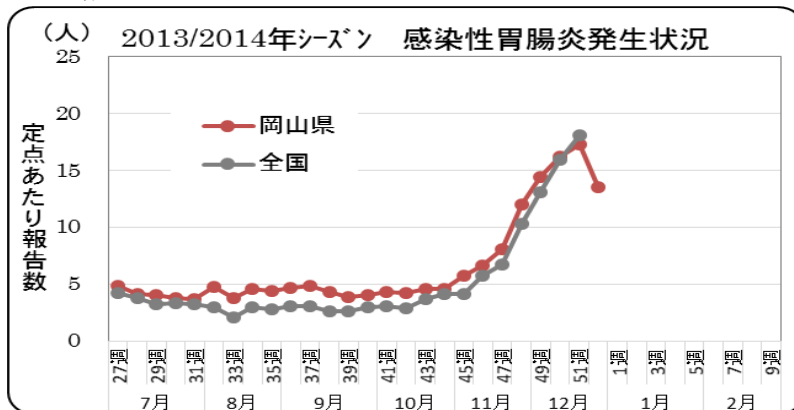


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

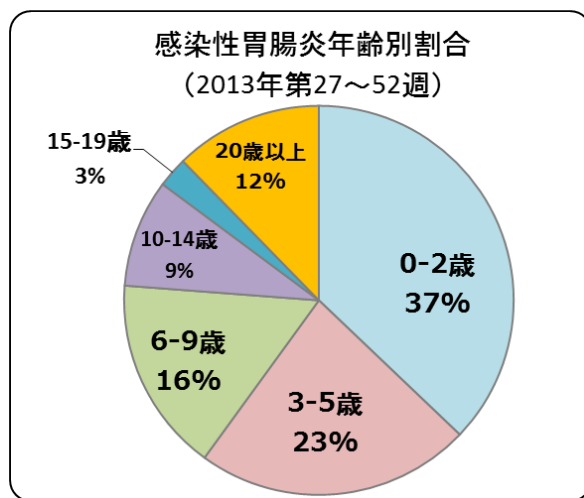
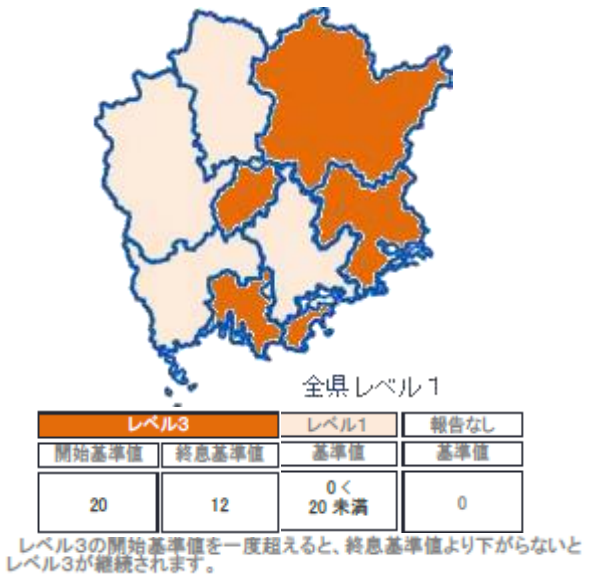
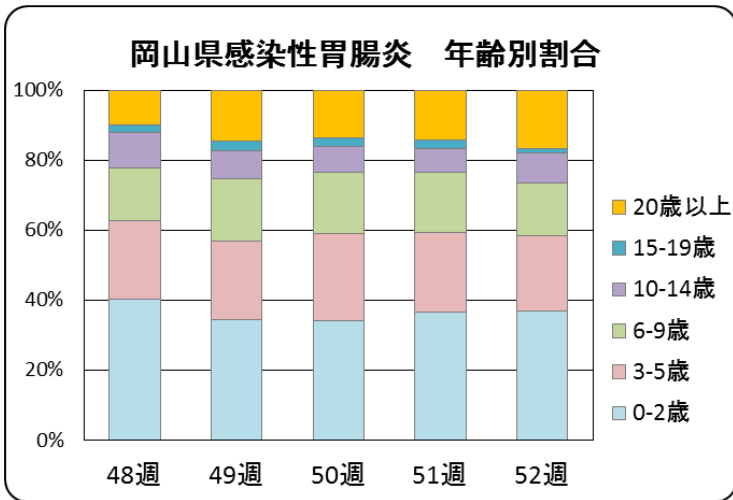
感染性胃腸炎は、県全体で 730 名(定点あたり 17.30 → 13.77 人)の発生があり、前週より減少しました。第 43 週以降報告数の増加が続いていましたが、約 2 ヶ月ぶりの減少となりました。患者は減少したものの、依然として多くの患者が報告されています。冬の感染性胃腸炎の原因はノロウイルス等のウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での発生がみられます。学校や福祉施設、病院などでは、手洗いの徹底や下痢便・嘔吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。

[○ノロウイルスに関する Q&A について \(厚生労働省\)](#)

◆地域別・年齢別発生状況



感染性胃腸炎感染症マップ 2013年 52週



地域別では、美作地域（22.00 人）、倉敷市（19.73 人）、備北地域（17.33 人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、倉敷市、備前地域、美作地域で発生レベル3となっています。

年齢別累計では、5 歳以下の乳幼児が全体の 60% を占めています。

◎感染性胃腸炎が多く発生しています。

石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。患者の嘔吐物や下痢便を処理する際には、自分が感染しないように、使い捨ての上着やマスク、手袋を着用しましょう。また、塩素系漂白剤などを使った消毒も併せて行いましょう。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

保健所別報告患者数 2013年 52週 (2013/12/23～2013/12/29)

2014年1月7日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	127	1.53	18	0.82	43	2.69	5	0.33	10	0.83	3	0.60	17	5.67	31	3.10
RSウイルス感染症	42	0.79	12	0.86	18	1.64	1	0.10	2	0.29	—	—	1	0.50	8	1.33
咽頭結膜熱	42	0.79	12	0.86	2	0.18	8	0.80	—	—	14	4.67	—	—	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	1.25	51	3.64	8	0.73	1	0.10	1	0.14	2	0.67	—	—	3	0.50
感染性胃腸炎	730	13.77	131	9.36	217	19.73	141	14.10	40	5.71	52	17.33	17	8.50	132	22.00
水痘	97	1.83	24	1.71	23	2.09	16	1.60	10	1.43	4	1.33	15	7.50	5	0.83
手足口病	6	0.11	3	0.21	1	0.09	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	16	0.30	5	0.36	6	0.55	4	0.40	—	—	—	—	—	—	1	0.17
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	3	0.06	2	0.14	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	6	0.50	2	0.40	2	0.50	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 52週 (2013/12/23～2013/12/29)

2014年1月7日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	127	1.53	18	0.82	43	2.69	5	0.33	10	0.83	3	0.60	17	5.67	31	3.10
咽頭結膜熱	42	0.79	12	0.86	2	0.18	8	0.80	—	—	14	4.67	—	—	6	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	1.25	51	3.64	8	0.73	1	0.10	1	0.14	2	0.67	—	—	3	0.50
感染性胃腸炎	730	13.77	131	9.36	217	19.73	141	14.10	40	5.71	52	17.33	17	8.50	132	22.00
水痘	97	1.83	24	1.71	23	2.09	16	1.60	10	1.43	4	1.33	15	7.50	5	0.83
手足口病	6	0.11	3	0.21	1	0.09	1	0.10	1	0.14	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.02	—	—	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	3	0.06	2	0.14	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	6	0.50	2	0.40	2	0.50	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3を示しています。
今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第52週 2013/12/23～2013/12/29)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	127	－	2	10	7	7	5	4	6	7	7	4	16	8	15	14	3	6	5	1	－

疾病名	合計		-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	42	20	7	8	4	1	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	42	—	3	6	5	6	6	—	2	7	1	1	3	—	2	—
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	66	—	4	2	2	8	17	7	3	5	1	7	7	—	3	—
感染性胃腸炎	730	19	52	126	71	53	49	57	38	25	24	23	61	9	123	—
水痘	97	2	4	16	17	18	15	9	7	4	3	1	1	—	—	—
手足口病	6	—	—	1	2	—	—	1	2	—	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
突発性発疹	16	—	8	6	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	3	—	—	—	—	1	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	6	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

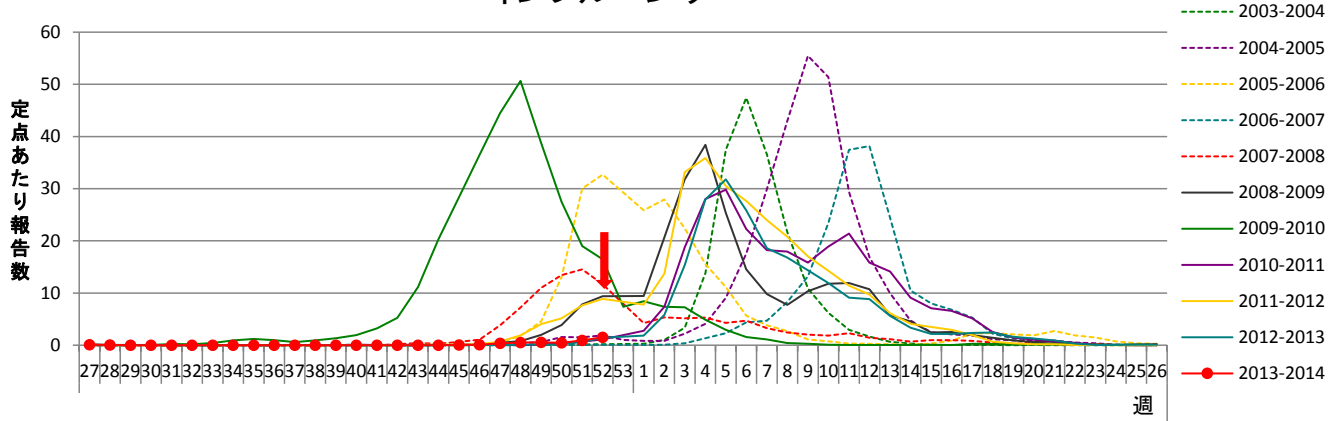
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

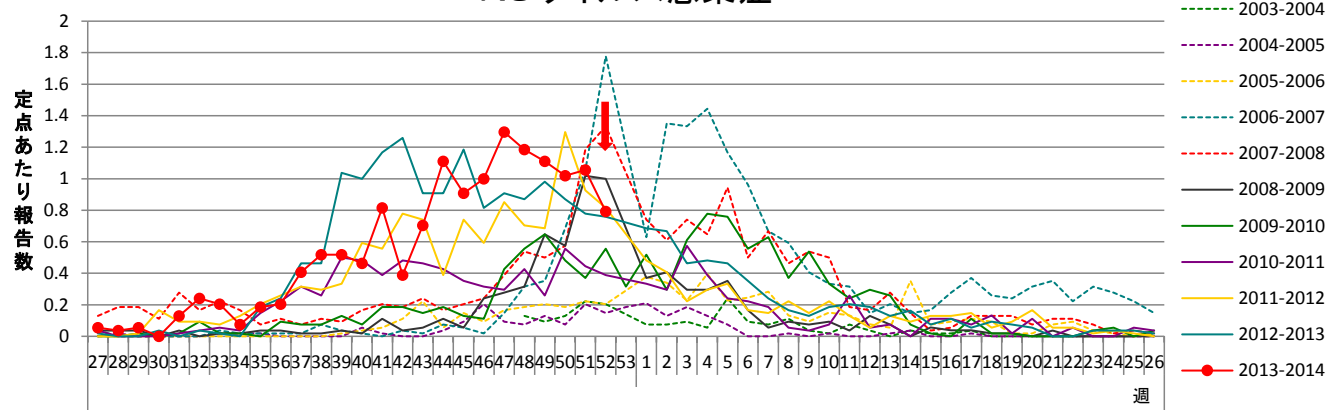
2013 年 52 週

分類	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012	疾病名	2013		2012
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ベスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	343	477	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	-	87	169
	腸チフス	-	1	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	5	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサナル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	2	-	腎症候性出血熱	-	-	-
	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-
	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1
	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-
	日本脳炎	-	1	-	日本紅斑熱	-	2	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-
	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-
	ポツリヌス症	-	-	-	マラリア	-	1	-	野兔病	-	-	-
	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-
	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	24	29	レプトスピラ症	-	2	-
	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	18	11	ウイルス性肝炎*3	-	13	7	急性脳炎*4	-	5
クリプトスポリジウム症		-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	4	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	2	1
後天性免疫不全症候群		1	18	16	ジアルジア症	-	1	3	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	-
侵襲性髄膜炎菌感染症		-	-	-	侵襲性肺炎球菌感染症	-	19	-	先天性風しん症候群	-	-	-
梅毒		-	8	7	破傷風	-	4	1	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	1	2	風しん	1	76	6	麻しん	2	3	6

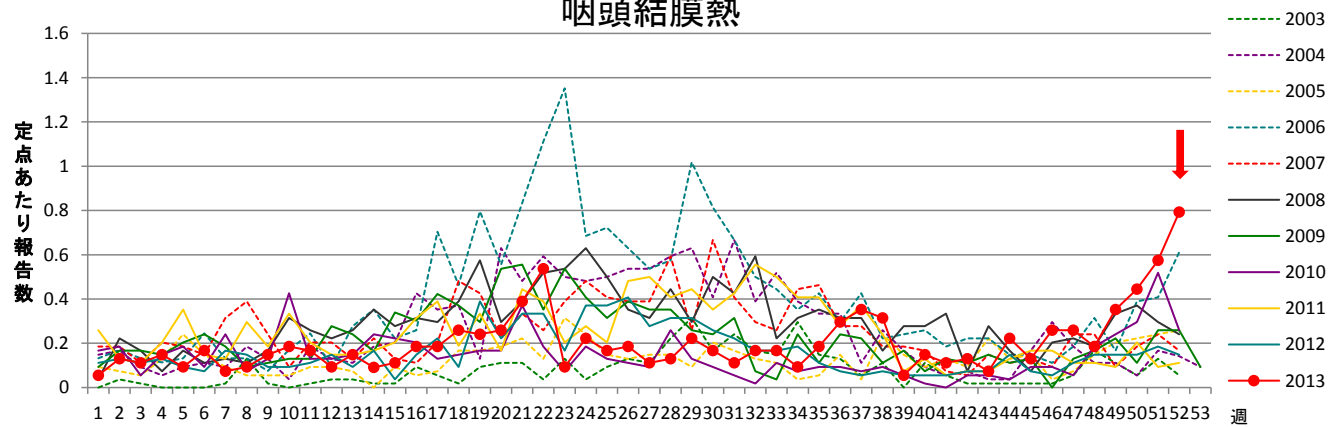
インフルエンザ



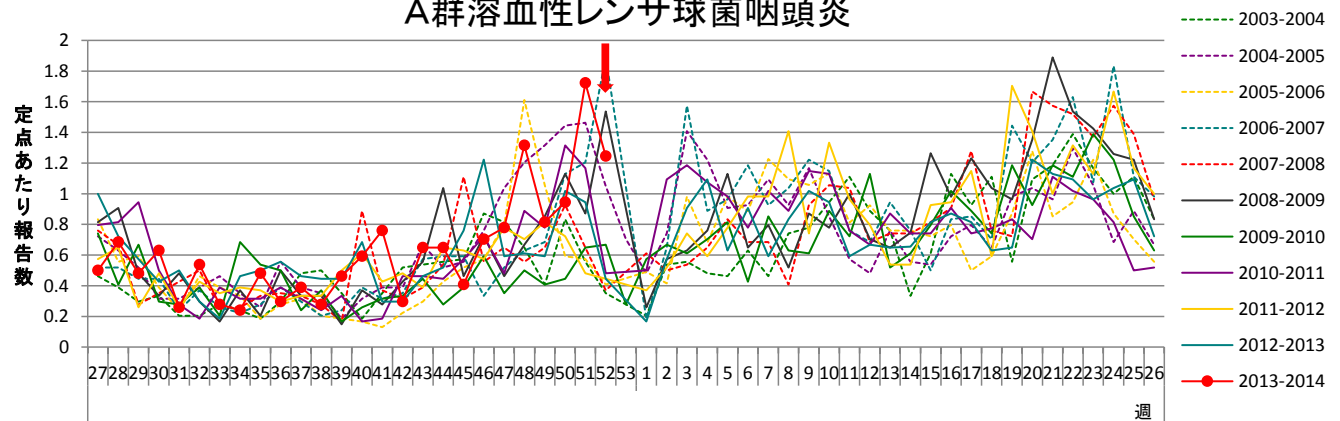
RSウイルス感染症



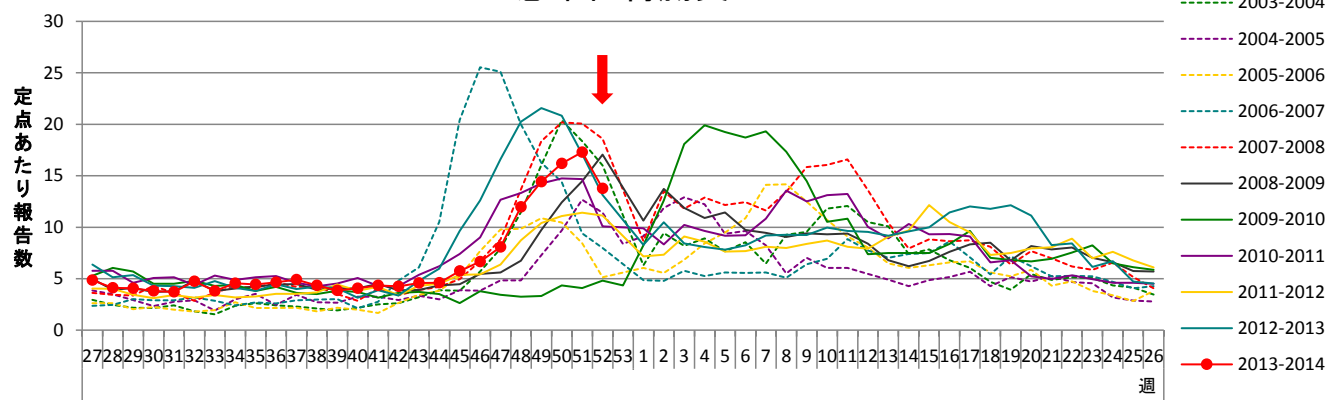
咽頭結膜熱



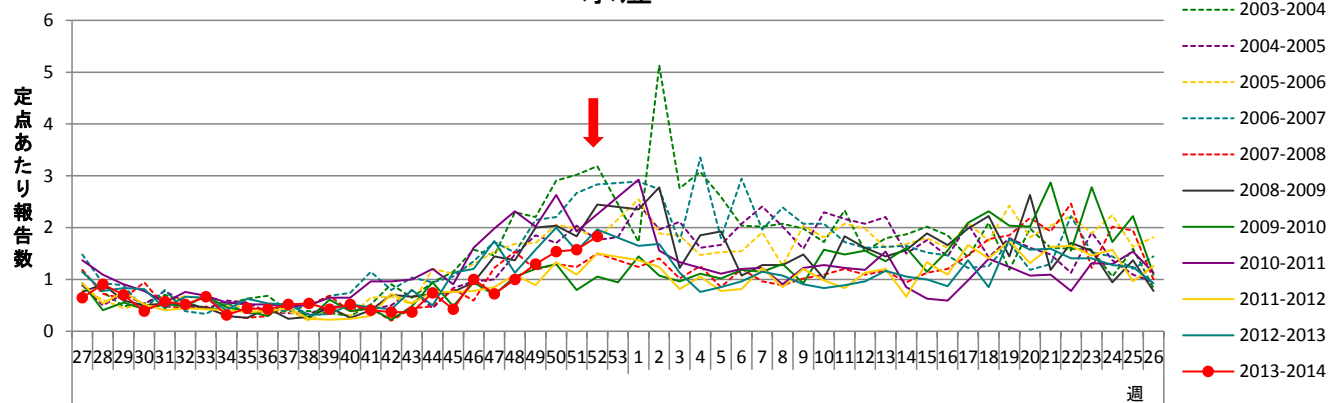
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



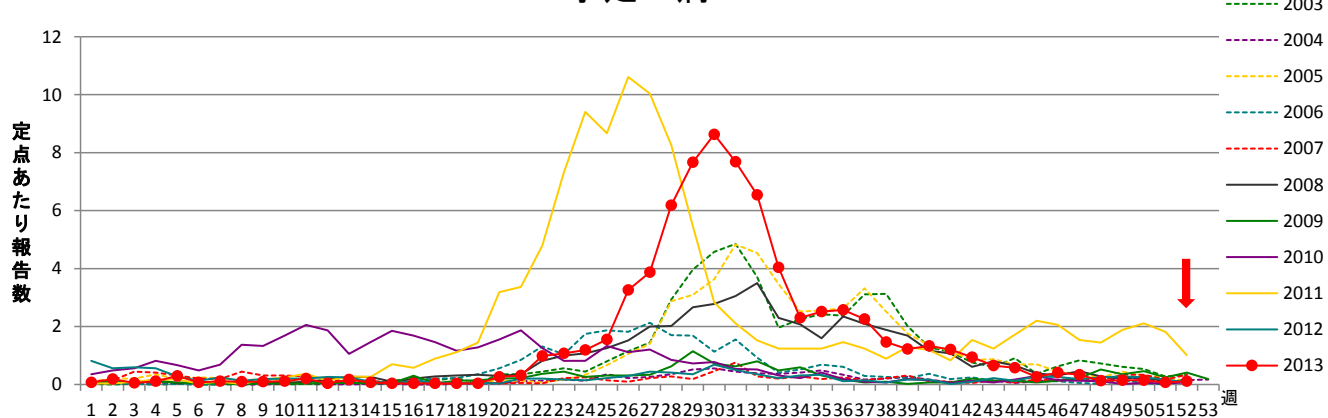
感染性胃腸炎



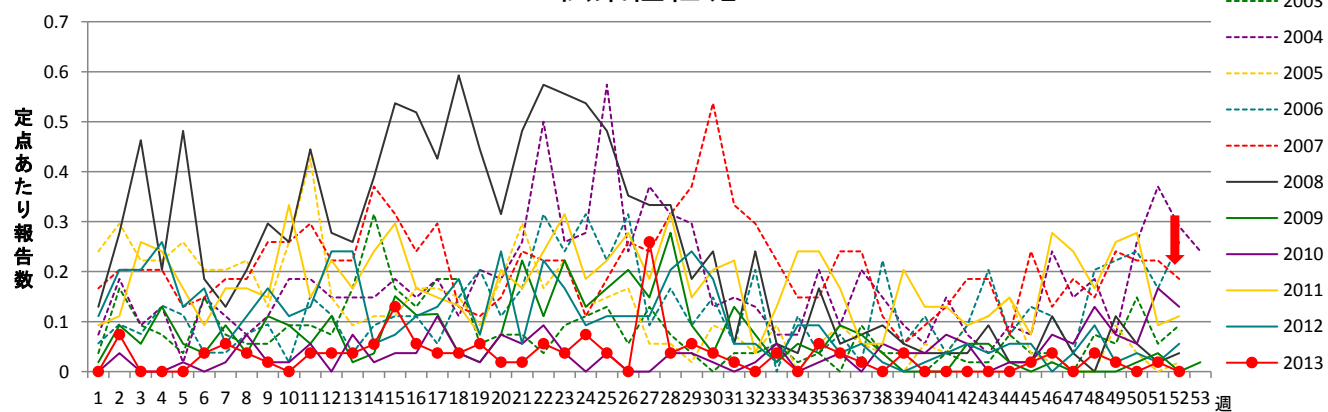
水痘



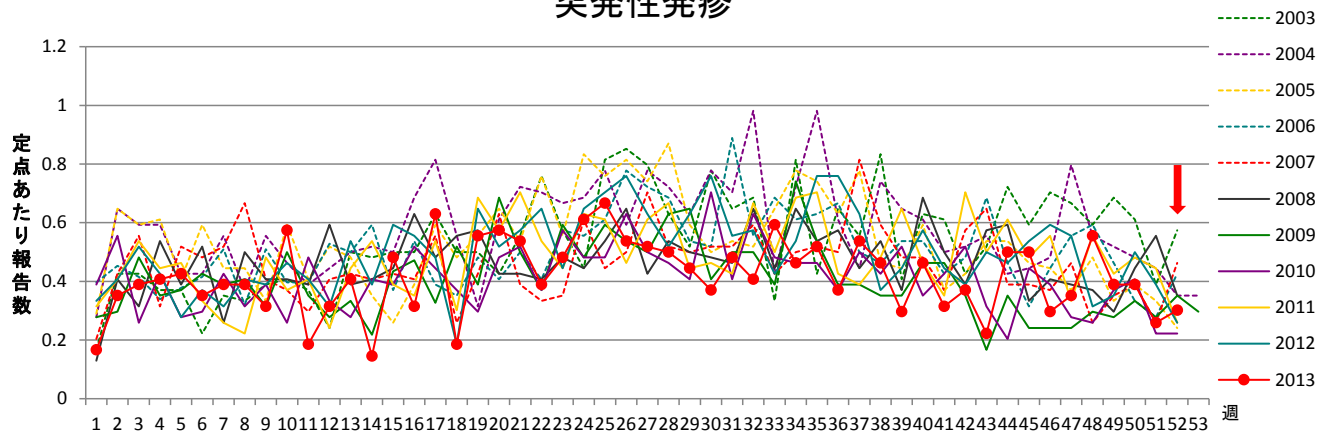
手足口病



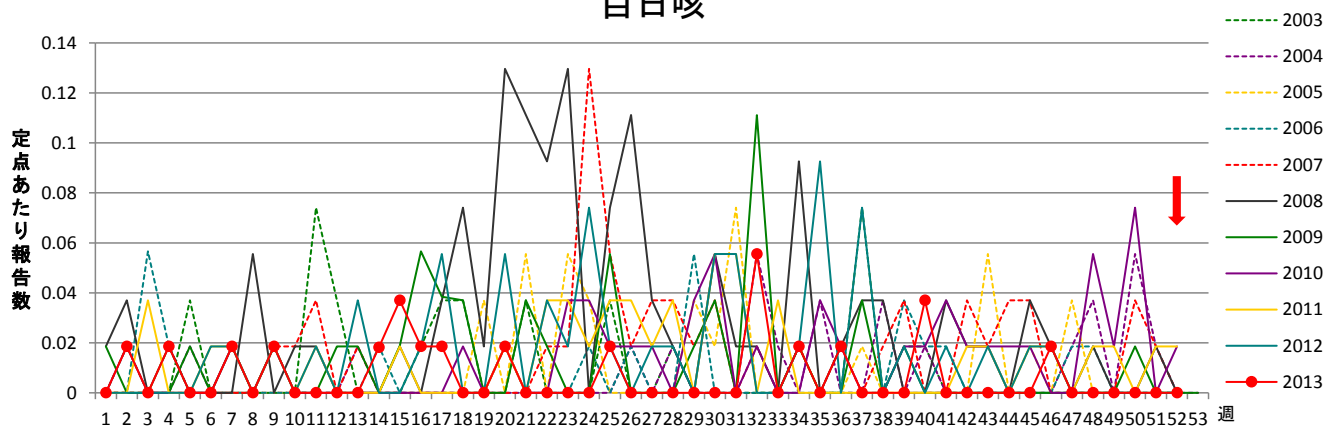
伝染性紅斑



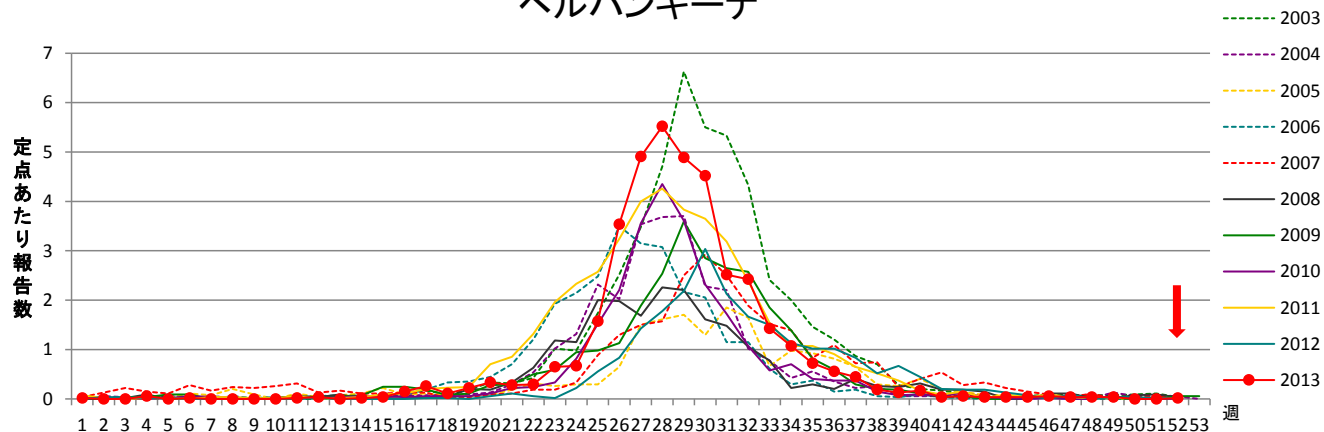
突発性発疹



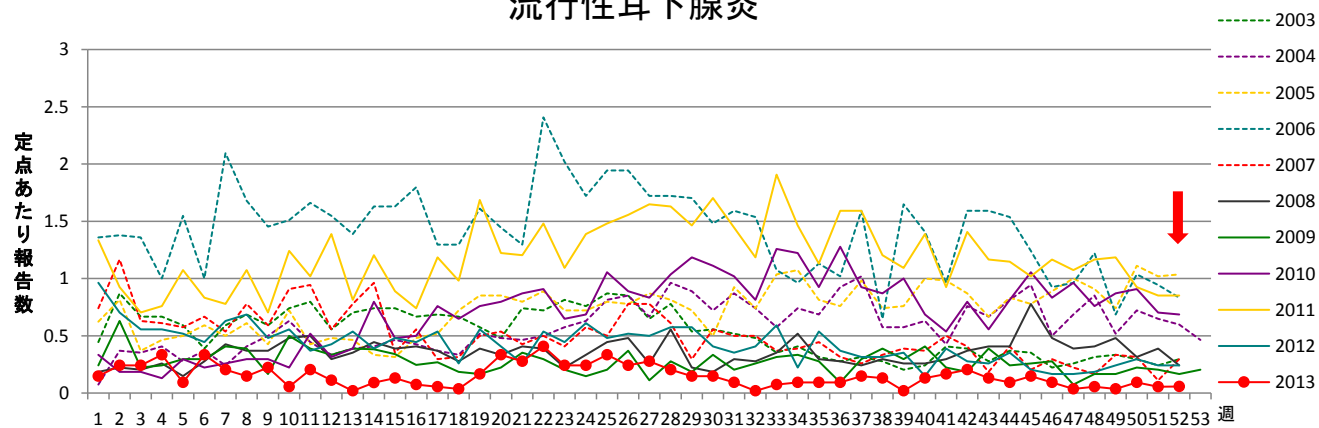
百日咳



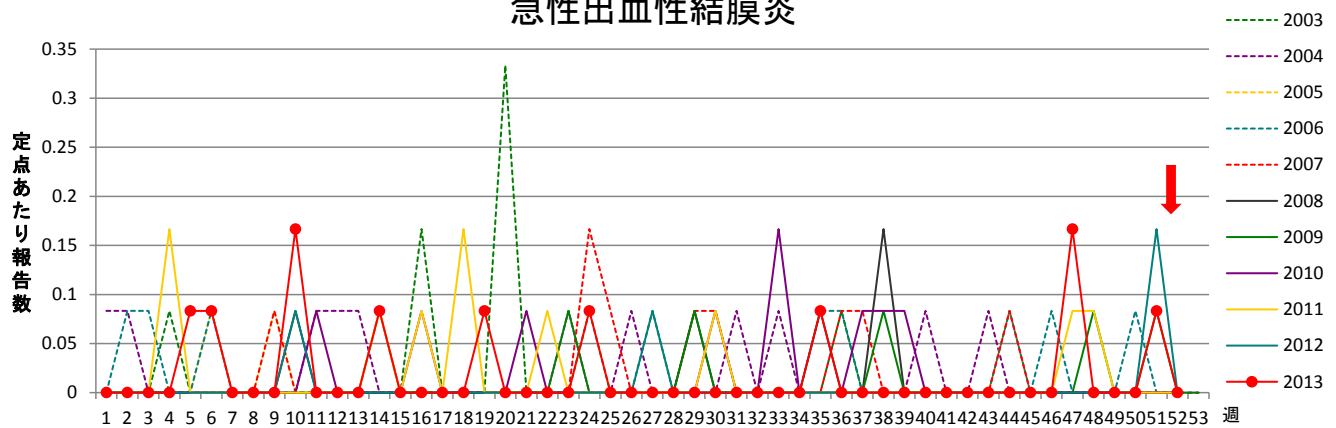
ヘルパンギーナ



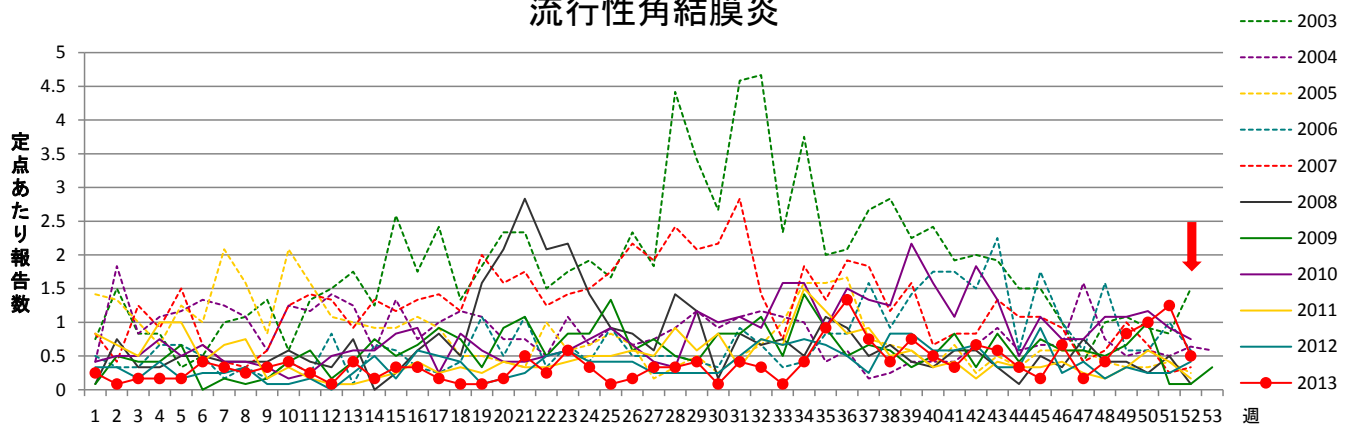
流行性耳下腺炎



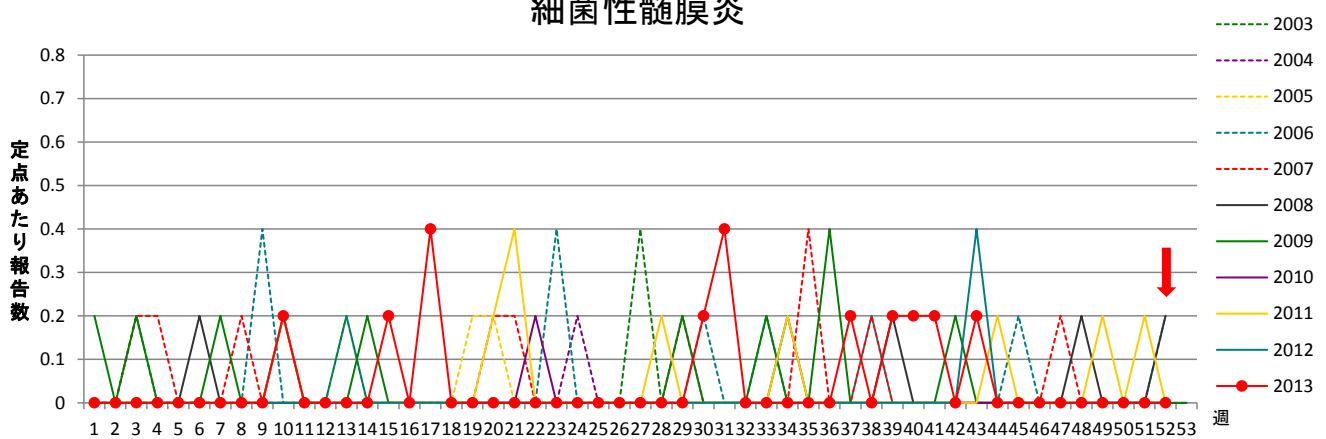
急性出血性結膜炎



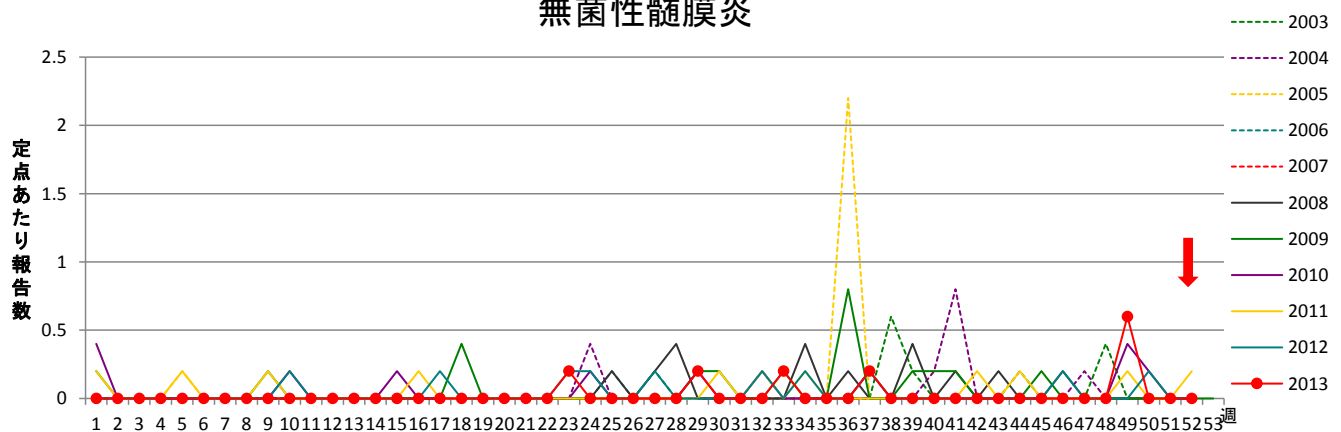
流行性角結膜炎



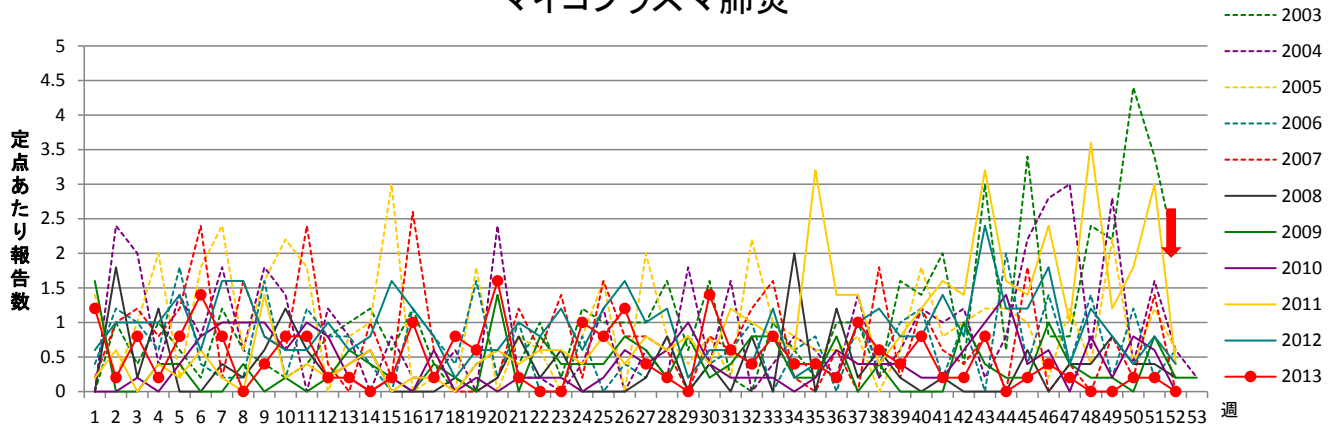
細菌性髄膜炎



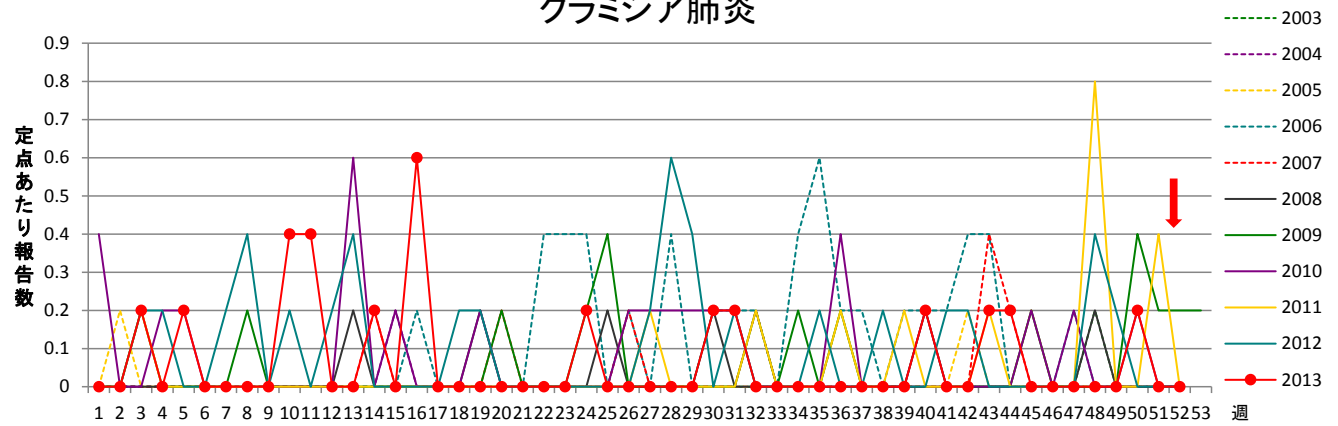
無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

